

JICA保健医療タスクニュースレター 「保健だより」第56号



☆今号のトピック☆

2021年11月26日発行

①東京栄養サミット2021直前特集 ②遠隔ICU

2021年も残すところあとひと月となり、肌寒くなってまいりましたが、皆さま如何お過ごしでしょうか。今号では、2つの特集があります！

1つ目は、12月7日(土)～8日(日)に開催される東京栄養サミット2021を取り上げています。公式サイドイベントはもちろんのこと、関連してJICA内外で行われるイベントもご紹介いたします。

2つ目は、新型コロナウイルス感染拡大下において、最新のJICAの取り組みである「遠隔ICU」のプロジェクトです。[JICA世界保健医療イニシアティブ](#)の3つの柱(※)のうち「治療」の観点から、世界10ヶ国で実施しています。

その他、ザンビアにおける新型コロナウイルス緊急支援の様子を、臨場感溢れる記事でお伝えしたり、連載企画の「私と虫」では、今話題の昆虫食を取り上げたりしております。今号もホットなトピックばかりのラインナップとなっておりますので、是非ご覧ください！

(※)3つの柱は、「治療」以外に、「予防」、「警戒」があります。

目次

- ◆ 今月のトピック① 栄養サミット直前特集！！ [1](#)
- ◆ 今月のトピック② 遠隔ICU [4](#)
- ◆ インターン活動の振り返り [5](#)
- ◆ 「JICA世界保健医療イニシアティブ」が一目でわかる広報資料完成！ [5](#)
- ◆ ザンビア技術協カプロジェクトによる新型コロナ第3波への緊急支援 [5](#)
- ◆ 連載：私と虫 第3回 昆虫の可能性 [6](#)
- ◆ 保健グループ What's Up [7](#)
- ◆ 編集後記 [7](#)

今号のトピック①

東京栄養サミット2021直前特集！！

いよいよ12月7日(火)、8日(水)に迫った東京栄養サミット2021(Tokyo Nutrition for Growth Summit 2021)。オリンピック・パラリンピックに合わせて開催され、ロンドン、リオデジャネイロに続く三回目として今回は東京で開催されます。今回の保健だよりでは、予定されているJICAの公式サイドイベントについて、また東京栄養サミット2021を盛り上げるためにJICA内外に向けて行われた広報イベントについてご紹介します。

★ ハイレベル・サイドイベント

2021.12.7

人間の安全保障と栄養～栄養の二重負荷の解決のための 連携を通じたコレクティブインパクトの発現に向けて～

東京栄養サミット2021の公式サイドイベントとして、サミット開催期間中である、12月7日(火)17:00～18:00に「人間の安全保障と栄養～栄養の二重負荷の解決のための連携を通じたコレクティブインパクトの発現に向けて～」を開催します。内容は以下のとおりです。

- 1) JICA北岡理事長による基調講演にて「JICA栄養宣言」の発信
- 2) 栄養分野の主要な開発パートナーを招き、各機関の栄養課題へのコミットメントやJICA栄養宣言との連携を確認
- 3) コレクティブインパクトの発現に向けた連携の可能性について意見交換

主要パートナーがオンラインで、一堂に会し、各組織のビジョンを示す貴重な機会です。人間開発部保健第二グループの吉田次長を筆頭に、保健第三チームと経済開発部のメンバーからなる混合チームを編成して準備を進めています。サミット本体と併せて、ぜひご注目ください。

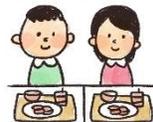
★ IFNA テクニカルサイドイベント

2021.12.1

Advancing Multi-Sectoral Approach for Nutrition -Experiences of IFNA and its Future-

経済開発部は、東京栄養サミット2021の開催に先立ち、12月1日(水)18時～テクニカルサイドイベントを開催します。主に開発途上国の政策担当者等を対象とし、IFNA(食と栄養のアフリカ・イニシアティブ)の取り組み事例やこれまでの成果を発信します。また、途上国の農村地域における栄養改善の取り組みを推進するため、必要な知識を習得し、具体的な政策立案まで繋げることを目的としています。さらに、IFNAを通じた円滑な栄養改善の取り組みも推進するため、マルチセクトラルなアプローチの方法や考え方について、パネルディスカッションを行います。本イベントはオンラインで開催され、どなたでもご参加いただけます。ご興味ある方は是非[ご登録](#)の上、ご参加ください。

子どもたちに健やかな未来を ～給食と栄養教育の可能性～



東京栄養サミット2021開催直前の12月2日(木)20時～保健分野のテクニカルサイドイベント「子どもたちに健やかな未来を～給食と栄養教育の可能性～」をユニセフと共同で開催します。世界各国の登壇者・参加者をオンラインでつなぎ、母子を主な対象とした栄養サービスのあり方、さらには、健康的な食習慣の定着を促す学校給食や栄養教育の可能性について、国際機関、学術者、途上国政府、民間セクターなどの様々なアクターが熱い議論を繰り広げます。JICAからは野村真利香国際協力専門員が本テーマに関する日本の強みやJICAの協力事例などについて発表します。オンラインで実施するため、ぜひ登壇者へのご質問など積極的にご参加ください。



『みんなの栄養』を覗いてみよう！ ～世界の学校給食から見える未来～

10月9日(土)、10日(日)に東京国際フォーラムとオンライン併用で開催されたグローバルフェスタ2021。「世界食糧デー」と「東京栄養サミット2021」を見据え、『みんなの栄養』を覗いてみよう！～世界の学校給食から見える未来～と題して、タレントの藤本美貴さんをゲストに迎え、マダガスカルとマレーシアにおける、身近な学校給食を通したJICAの協力を紹介しました。MCを務めたnicoさん(J-WAVEナビゲーター)は、マダガスカルで実際に食べられている給食を実食。また、野村真利香国際協力専門員が世界の栄養課題について、各国での取り組みを説明しました。藤本さんは「学校給食の素晴らしさに改めて気付くことができた」と話していました。



More Information

▶ 東京栄養
サミット2021
公式ウェブサイト

▶ 公式サイド
イベント情報

▶ JICA
特集ページ

★ 日経新聞電子版タイアップ記事



当日はガーナとJICA本部を繋いで対談しました

民間企業の方々に、栄養課題解決のために自社の技術や製品を活用するきっかけを提供することを目的とし、座談会「世界の栄養課題～今こそ求められる日本企業の英知～」を実施し、日経新聞電子版に記事を掲載しました。全2回シリーズの1回目は9月17日に行われました。今回はガーナ母子手帳プロジェクトから萩原明子国際協力専門員を、味の素ファンデーションから上杉高志事務局長をお招きし、ホラン千秋さんのファシリテーションのもと、栄養改善の現場での活動や民間連携について対談を行いました。萩原専門員とホラン千秋さんの地元が同じという

共通点が見つかり、また上杉事務局長と萩原専門員の息ぴったりな掛け合いも見られ、和やかな雰囲気の中で熱い対談が繰り広げられました。特に、技術協力プロジェクトと民間企業の活動が互いに補完し合いながら現地で信頼を得て子どもの栄養改善に取り組んでいるというお話が印象的でした。1回目の記事はこちらのリンク([世界の栄養課題～今こそ求められる日本企業の英知～ 独立行政法人 国際協力機構 | 日本経済新聞 電子版特集 \(nikkei.com\)](#))からアクセス可能です。2回目の記事もどうぞお楽しみに！

感じる「現場」！ 考える「栄養」！！

9月1日から14日まで地球ひろばにて栄養に関する写真展を開催しました。『感じる「現場」！考える「栄養」！！』というタイトルで、全世界から保健、水・衛生、農業・食料、教育の切り口で、栄養に関する「現場」の臨場感が伝わる選りすぐりの写真25点を集めました。展示の際には、マルチセクショナルな取り組みが伝わるように、セクターごとに並べる工夫をしました。世界の「栄養問題」



について考えるきっかけの場となったのではないかと思います。また、9月22日には、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと協力してNGO-JICA勉強会「世界の栄養～東京栄養サミット2021に向けた勉強会シリーズ～」第一回を開催し、JICAとセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンそれぞれの栄養の取り組みを紹介しました。200人を超える参加者が集まり、栄養への関心の高さが伺えました。



身近なアクションから世界の栄養改善に取り組んでいるTABLE FOR TWO (TFT)と、市ヶ谷の地球ひろばにて展示(9月26日～10月30日)およびオンラインセミナー(10月28日)を実施しました。展示期間中には地球ひろばのJ's CafeにてTFTメニューを提供し、TFTのコンセプトである「先進国の私たちと開発途上国の子どもたちが食事を分かち合う」に共感した訪問者が食事を楽しみました。

オンラインセミナーではTFTの活動の一つである「おにぎりアクション」に注目し、個人単位から企業や自治体の様々なアクターを巻き込みながら、身近な「おにぎり」で世界の栄養不良に取り組む活動を紹介しました。野村真利香国際協力専門員からは、世界の栄養課題やマルチステークホルダーでの取り組み事例を紹介し、TFTの活動へ参加している企業や自治体からの視点も交えて、ディスカッションを行いました。

(栄養サブネットワーク 今井、高橋、長瀬、松尾、好井、柴田、長尾、南、田中、山口、丸山、古田、上平、水野)

JICA世界保健医療イニシアティブによる治療の推進 — 遠隔集中治療支援 —

多くの開発途上国では、新型コロナウイルス感染症拡大により集中治療室(ICU)を必要とする患者が急増し、重篤患者の治療を担う医師・看護師等の対応力の強化や、新型コロナウイルス感染者を他の患者と隔離して集中治療を行うICU設備の整備が喫緊の課題となっています。これに対応するため、JICAは開発途上国の集中治療に従事する医師・看護師と、日本の集中治療専門医・看護師を

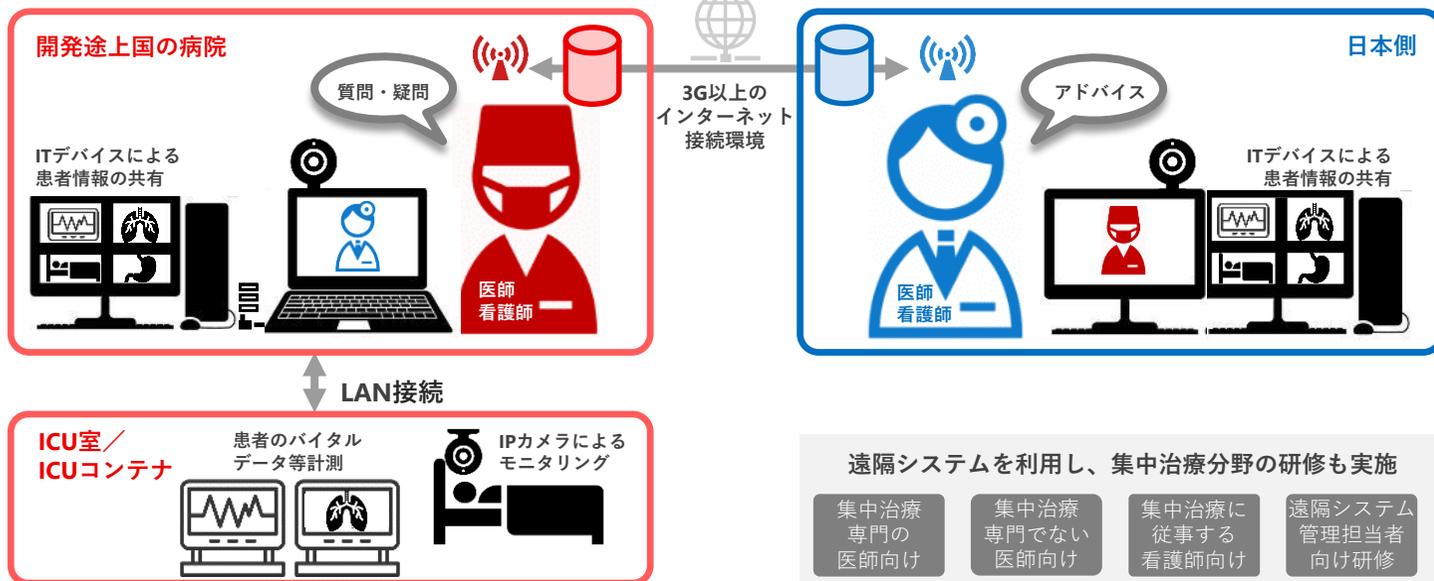
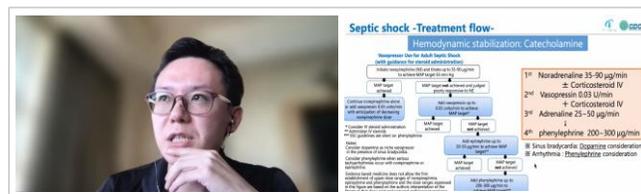
通信システムでつなぎ、集中治療医療に関する研修や技術的助言、また臨時用のICU設備(コンテナやプレハブ)や資機材の整備を、アジア、中南米、アフリカ地域のおよそ10か国において進めています。また、この事業は「JICA 世界保健医療イニシアティブ」の柱の一つである治療技術の向上の一環で、JICAは、遠隔医療に関する協力により、開発途上国の新型コロナウイルス感染症対策に貢献します。

遠隔技術を活用した集中治療の能力強化

2021年10月現在、技術協力の前段階として、フィリピンとインドネシアで試行的なオンラインの遠隔研修を実施した他、ケニア、パラオ、トンガでは本格的な技術協力プロジェクトが始まり遠隔研修を行っています。遠隔研修では、画面越しであるため、医療現場の状況や病院側の詳しいニーズを理解する事が簡単ではありません。しかし、回を重ねる毎に相手国と実施側が互いに研修の取り組

み方と実施方法を改善し、研修前の準備段階で病院側と丁寧にコミュニケーションを取る事で、より円滑で活発な研修になってきています。研修後には、オンラインによるリモートカンファレンス(症例検討会)のセッションを予定しており、遠隔情報システムを活用した現地と日本の医師・看護師同士のコンサルテーションや助言を通じた技術協力を進めていきます。

今後、メキシコ、ボリビア、エルサルバドル、グアテマラ、セネガルなど他の国でも遠隔集中治療の技術協力プロジェクトを随時開始し、新型コロナウイルス感染症をはじめとする重篤患者を適切に管理・治療するための医療サービス体制の確立を図っていきます。



トンガではコンテナでICU5床を設置予定(写真右:設置予定場所)

遠隔ICU支援イメージ図(写真は事前の調査事業でインドネシア国ハサヌディン大学病院と接続時のもの)

(新型コロナウイルス感染症対策協力推進室 米田裕香)

2021年8月より3週間、新型コロナウイルス感染症対策協力推進室(新コロナ室)及び地球環境部水資源グループでインターンとして活動させていただきました岩田です。新コロナ室では広報業務やASEAN版「健康危機対応能力強化に向けたグローバル感染症対策人材育成・ネットワーク強化プログラム(PREPARE)」説明資料の作成、サモア国立大学向けの無償プロジェクトや民間企業との会議、遠隔ICU協力の活動への参加など普段は得ることのできない様々な経験をさせていただきました。その中で最も印象に残っているのは日々お会いする職員の皆様や国際協力専門員の方などの交流でした。お話の中で一人一人の想いや経験を聞いて、私は将来どのように国際協力に携わりたいかというヒントを多くいただきました。インターンを経て、保健分野



の国際協力を仕事にしたいという想いが強くなりました。短い時間ではありましたが、インターンで学んだことを活かし、今後も精進してまいります。インターン後も連絡を取り合いながらこのご縁を保っていけると嬉しいです！

(新型コロナウイルス感染症対策協力推進室
インターン 岩田 純奈)

「JICA世界保健医療イニシアティブ」が 一目でわかる広報資料完成！

「JICA世界保健医療イニシアティブのことは知りたいけど、大量の資料を読むのはちょっと・・・。」とされている方のために、「JICA世界保健医療イニシアティブ」が、「一目で分かるJICA(JICA at a Glance)」がついに！完成しました！JICAが取り組む3つの柱「治療」、「予防」、「警戒」について、ベトナムの事例とともに、わかりやすく説明しています。JICAホームページでも公開されていますので、ぜひチェックしてください！

JICA世界保健医療イニシアティブ

命と健康を守る

JICA in Action

341施設
48国・200市町村
13カ国・13州府
2800名以上

JICA at a Glance

「JICA世界保健医療イニシアティブ」

ベトナムの新型コロナウイルス対策へのJICA協力事例

治療 予防 警戒

▶ 「JICA at a Glance」一目でわかるJICA

▶ JICA in Action (ジャイカインアクション)
「JICA世界保健医療イニシアティブ」

ちなみに、前回の [保健だより第55号](#) (2021年8月発行)においても、「JICA世界保健医療イニシアティブ」を特集しておりますので、まだご覧になっていない方は、ぜひ読んでみてください！

(新型コロナウイルス感染症対策協力推進室
米田裕香、吉津智恵)

ザンビア共和国ルサカ市内の5つの総合病院におけるJICA新規技術協力プロジェクト『ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト』は、ザンビアにおけるコロナ第3波と共に幕を開けました。6月下旬のピーク時には、7日間平均で2,800例と過去最大の感染者数で、陽性率も20%を超え、コロナ患者さんで溢れる中、プロジェクト病院の現場スタッフは、不十分な个人防护具・医療器材の中で懸命に治療を行っていました。



▲コロナ病棟に変更された産科病棟にて、コロナ患者の治療にあたる助産師に个人防护具着脱の指導をする法月リーダー

酸素すら投与されずに亡くなる人々を目の前に、JICAとして何とか支援せねばならないと強く感じました。酸素飽和度計や酸素濃縮器などの医療器材の調達の手配のみならず、コロナ専用病院になったチレンジェ病院にて現場で働く人々への个人防护具の着脱の訓練や、慢性的に混雑する病院において、感染対策の観点からの患者フローの構築など、プロジェクトとして今すぐできる技術支援を行いました。現場に入っているからこそできた我々の緊急支援活動は、ヒチレマ新大統領にも報告し、評価をいただきました。

10月現在、どうにか第3波は収まりましたが、人々の忌避によりワクチン接種率が2%程度のザンビアでは、次の第4波に備えなくてはなりません。本プロジェクトは、現場スタッフと共に痒い所に手が届くような現場目線の活動していきたいと考えています。

(ルサカ郡一次レベル病院運営管理能力強化プロジェクト チーフ 法月正太郎)



▲マテロ病院の入口に設置したテントで体温を計測し、手指衛生をする体制を支援。多くの人が訪れる病院では基本的な感染対策も難しい



▲コロナ第4波に向けたワクチンキャンペーン会場において、2021年8月に就任したヒチレマ大統領に対し、プロジェクトのコロナ緊急支援の説明をする原専門家

● 今注目される「昆虫食」

FAO(国連食糧農業機関)が2013年の報告書で「昆虫食」が食料資源として将来有望と指摘したことで、世界中で注目を集めています。日本でも最近ではメディアに取り上げられる機会が増え、「昆虫食」ビジネスが盛り上がり始めています。「虫を食べる」と聞くと、日本では抵抗感を持つ方がいるかもしれませんが、実は昆虫はタイやカンボジア、ケニア、メキシコなど開発途上国を中心に世界約20億人に食されている食材です。

日本でも食用昆虫販売に取り組む企業がどんどん増えてきており、無印良品で販売されている「コオロギせんべい」をはじめ、健康的なイメージの食品として市場への流通も増えてきています。

JICAでも昆虫食に関する案件が実施されており、NPO法人ISAPHとNPO法人食用昆虫科学研究会によりラオスでの草の根技術協力「農村部住民の食糧事情向上を目指した昆虫養殖技術普及事業」が実施されています。こちらは、ラオスの子どもたちが昆虫をよく食べることに着目し、昆虫養殖を通じて栄養と所得を改善する基盤となる養殖世帯を育成する事業です。

他にも昆虫の持つポテンシャルを開発課題解決に繋げることを目指した「虫籠プロジェクト～虫で食糧危機回避！腹も財布も膨らませよう！～」が新規事業として採択されるなど、JICA内でも注目が集められています。

● 昆虫食の保健分野におけるメリット

「昆虫食」が注目されている理由として、高い栄養価であることが挙げられます。特にたんぱく質摂取という観点では、牛・豚・鶏といったメジャーな家畜とも遜色ないたんぱく質を含んでいます。特に乾燥粉末にした場合は100gあたり60g近いたんぱく質を含有することから、スポーツをする方向けに昆虫の粉末を使用したプロテインバーの販売等も行われています。

他にも、昆虫によっては微量栄養素の面で優秀な食材として知られています。例えば、コオロギは亜鉛を豊富に含んでいることから、亜鉛不足に悩む妊婦の方向けにコオロギを使用した栄養食品の開発等が進められています。その他にも、高機能性に着目して、カンボジアでのプロスポーツ選手向けのコオロギによる栄養食品開発や、スズメバチの栄養液を再現したスポーツ飲料(VAAM)など、「昆虫」×「栄養」のコラボレーションは多岐にわたります。

さらに、昆虫は残渣等、人が食べないものを飼料としています。ブルキナファソでは採集昆虫が食糧アクセスに貢献するとの報告もあり、養殖化によって更にフード

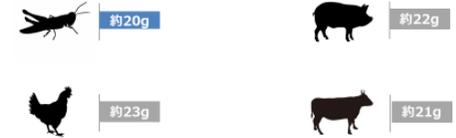


セキュリティに貢献するのではないかと期待されています。

昆虫が栄養のポテンシャルを見いだされたことで他の利点も見えてきました。大型の家畜と比較して、一年に何度も収穫でき、小さいスペースで養殖できるため、女性や力の弱い人でも収穫できます。不足しがちな栄養を自給できることに加え、養殖した昆虫を市場に売りに行き別の栄養豊富な食材を買って帰れるようにもなるかもれません。

JICA 昆虫産業の特徴 **高い栄養価**

100gあたりに含まれるたんぱく質量



主な動物性たんぱく資源の家畜と同じく、主要な栄養素を多く体内に含むため、**栄養素を効率よく摂取することが可能。**

Japan International Cooperation Agency

▲「虫籠チーム」作成

● おいしい！？昆虫ランキング！

現在JICAの草の根協力事業にて昆虫専門家としてラオスに滞在している佐伯真二郎専門家が味見したおいしい昆虫トップ10です。昆虫食にご興味のある方はぜひご参照ください！！



1位のトビロスズメの幼虫

1位	トビロスズメ・幼虫・前蛹
2位	エリサン・蛹
3位	トノサマバッタ・成虫
4位	オオシモフリスズメ・前蛹 フェモラータオオモオモプトハムシ・蛹・前蛹 モンクロシャチホコ・幼虫
7位	アブラゼミ・幼虫 オオスズメバチ・蛹
9位	ヤシオオサゾウムシ・幼虫 アゲハチョウの仲間・幼虫

(東南アジア・大洋州部 大友、民間連携事業部 中村、経済開発部 山口)

最近の保健グループ関連の動きを掲載します！

【技術協力】

- ジョージア「新型コロナウイルス影響下における医療機関のキャパシティ強化プロジェクト」(2021年7月、R/D締結)
- メキシコ「コミュニティを基盤とした高齢者の包括介護プロジェクト」(2021年7月、R/D締結)
- メキシコ「野口英世博士地域研究所感染症対策能力強化」(2021年7月、M/M署名、案件開始)
- ウガンダ「5S-CQI-TQMを通じた患者安全構築プロジェクト」(2021年7月、R/D締結)
- マレーシア「新型コロナウイルス対策ワクチン流通体制強化計画」(2021年7月、R/D締結)
- ケニア「カウンティ保健サービス管理におけるアカウントビリティ強化プロジェクト」(2021年8月、R/D締結)
- ニカラグア「家庭・地域保健モデル強化を通じたプライマリーヘルスケアの改善プロジェクト」(2021年8月、専門家派遣開始)
- カンボジア「保健人材継続教育制度強化プロジェクト」(2021年8月、R/D締結)
- ベトナム「フエ中央病院新型コロナウイルス感染症対応能力向上プロジェクト」(2021年8月、R/D締結)
- インドネシア「感染症創薬の実現に向けた薬剤の至適化と前臨床試験の確立」(2021年9月開始)
- マレーシア「感染症創薬の実現に向けた薬剤の至適化と前臨床試験の確立」(2021年9月開始)
- タイ「新型コロナウイルス抗体開発能力強化プロジェクト」(2021年9月、R/D締結)
- タイ「新型コロナウイルス感染症等パンデミック対応のための国立ラボ施設機材及びネットワーク強化プロジェクト」(2021年9月、R/D締結)
- タイ「保健省感染症研究所における新型コロナウイルス対応能力強化プロジェクト」(2021年9月、R/D締結)
- ラオス「病院の保健医療サービスの質および財務管理改善プロジェクト」(2021年9月、R/D締結)
- 中東・欧州地域14カ国「医療関連感染予防・管理」(国別研修)(2021年9月Aグループ遠隔研修実施)
- パラグアイ「栄養改善アドバイザー」(2021年10月、専門家派遣開始)
- エチオピア「病院運営改善アドバイザー」(2021年10月、専門家派遣開始)
- ホンジュラス「保健サービスネットワーク(RISS)を通じた保健サービスデリバリー強化プロジェクト」(2021年10月、専門家派遣開始)
- ザンビア第三国研修「南部アフリカ地域における新興・再興感染症のPREPAREプログラム」(2021年10月実施)

【無償資金協力】

- モンゴル「新型コロナウイルス感染症危機対応緊急支援計画」(2021年7月、G/A締結)
- モザンビーク「新型コロナウイルス感染症危機対応緊急支援計画」(2021年7月、G/A締結)
- セネガル「新型コロナウイルス感染症危機対応緊急支援計画」(2021年7月、G/A締結)
- パキスタン「シンド州における母子保健医療施設拡充計画」(2021年8月、G/A締結)
- ガーナ「新型コロナウイルス感染症危機対応緊急支援計画」(2021年9月、G/A締結)



【国際会議等】

- 母子手帳国際会議(2021年9月23日オンラインで開催)

【一般契約】

- 病院における5S-KAIZEN-TQMのアフリカ地域広域展開に向けた情報整備及び人材育成に関する業務(2021年8月、業務開始)

編集後記

保健だより第56号では、「栄養サミット」「遠隔ICU」についての特集記事を掲載しましたが、いかがでしたでしょうか。栄養、コロナ、虫など盛り沢山な内容でしたが、JICAの多岐に渡る保健・栄養分野の活動について少しでも興味を持っていただけたら幸いです。今回も記事執筆にあたり、多くの方にご協力いただきました。広報タスクの一員として、この場をお借りして御礼申し上げます。次号ではヒューマン・キャピタルについて取り上げる予定です。お楽しみに！

(保健第一チーム 加島)



保健だよりで取り上げてほしい特集テーマを募集します！
人間開発部 kadaishien-ningen@jica.go.jp までお寄せください！
ご意見ご感想もお待ちしております！